

犬のしゃっくりが止まらない!しゃっくりの止め方や頻度が多い場合の対処方法について

犬のしゃっくりは、そのまましておいても自然に治まるケースは多いものの、しゃっくりが頻繁に起こる場合には、何らかの病気が関係していることも考えられます。犬のしゃっくりが止まらないときの止め方や対処方法などについてお伝えしていきます。



犬はなぜ、しゃっくりをする?主な原因とは

①食事を急いで食べ過ぎて胃が広がっている

しゃっくりは、横隔膜に刺激がかかった場合に出やすくなります。犬が食事を早食いする癖がある場合、胃が急にフードで満たされて急激に大きくなったり、同時に飲み込む空気の量が多くて胃が拡張したりすることで、しゃっくりが出るのです。

②与えている餌が合っていない

犬に与えるドッグフードには、ドライフードやウェットフードなど、様々な種類があります。与えている餌が犬の体質に合っていないと、消化された際にガスが発生して、胃が拡張しやすくなり、結果的にしゃっくりが出やすくなる場合があります。

③胃が冷えている

夏場に水を飲みすぎたり、冷たいものを食べすぎたりして、胃が急激に冷やされると、横隔膜が刺激されて、しゃっくりが出やすい状態になります。暑い時期だからといって、夏場に氷水などを犬に与えるのは避けたほうが良いでしょう。

④不安やストレスを抱えている

犬が不安やストレスを抱えていると、交感神経の働きが乱れ、呼吸が荒くなり、しゃっくりが出ることがあります。リラックスしている時間や、ストレス発散の時間が足りないとみられる症状です。

犬のしゃっくりから考えられる病気



犬のしゃっくりから考えられる病気については、胃拡張または胃捻転、心膜炎または胸膜炎、脳神経の障害などが挙げられます。万が一、愛犬が苦しそうにしゃっくりしていたり、症状が長引いたりしている場合には、放置せずに最寄りの動物病院へ連れて行き、獣医師から意見をもらうようにすると良いでしょう。

犬のしゃっくりの止め方

①1回の食事の量を減らし、与える回数を増やす

食後にしゃっくりが起こりやすい場合には、1回の食事の量を減らし、その分、与える回数を増やすことで、胃が拡張しすぎる現象を防ぐと良いでしょう。底の部分に突起がある食器を使えば、犬の早食いを防止することもできます。

②フードを切り替える

食後のしゃっくりが気になる際には、ドライフードやウェットフードなどのパッケージを確認したうえで、獣医師に相談し、犬の体質に合ったフードの切り替えを検討すると良いでしょう。

③水を飲ませる

呼吸が乱れることでしゃっくりが出ている場合には、お水を適量飲ませることで、呼吸を整えさせることができます。ただし、犬が水をはぐ飲みすると、鼻に入ってさらに呼吸が乱れたり、胃の拡張の原因になったりする場合があるので、少量ずつ与えるのがベストです。

④おやつを与える

犬がストレスや不安などを感じている際には、おやつを少量与えることで、好奇心と食欲を満たし、呼吸を落ち着かせることができる場合があります。大きな形状のおやつは、喉に詰まらせる可能性があるため、犬の口のサイズに合ったおやつを適量与えるようにしましょう。

⑤胃と肋骨の間のあたりをマッサージする

胃と肋骨の間のあたりを「みぞおち」と呼びますが、このあたりに横隔膜があるため、マッサージをすると緊張がほぐれ、しゃっくりが止まりやすくなります。強くマッサージするのではなく、あくまでもやさしく行うのがポイントです。

⑥軽い散歩に連れていく

しゃっくりが止まらないときは、軽い散歩に連れていくことで、体のリズムが整い、治まることがあります。様子を見たい場合は、外出させるのではなく、まずはお家の中を軽く歩かせてみると良いでしょう。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

☎ LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

